○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を開始いたします。

何事も予定どおり運ばないもので、まさか午前中に順番が回ってくるとは思いませんで、２回ほど資料を取りに外に出たんですけれども、何事も予定どおりには済まない、いろいろ山あり谷あり教訓を受けました。

ただいまより一般質問を開始しますけれども、その前に、ことしに入っての東南アジアのハリケーンの被災者、そして、四川大地震、先日の岩手・宮城内陸地震、そして、悲惨だった秋葉原の無差別殺人、犠牲者の方々に本当に心より御冥福を申し上げますとともに、被災された方々が一刻も早く平穏な日を過ごせますように願っております。

災害については後の質問で関連してきますので、またそこでも述べさせていただきたいと思っております。

今回の質問項目は３項目。１点目は武雄市のＰＲについて。

この１点目は、新幹線の着工が決定し、そこで古川知事、そして県のほうは、新幹線というすばらしい道具、ツールが手に入ったと、それを利用しなければいけない、そういうふうなことをおっしゃっております。

同じように、武雄市は市長を先頭に今どんどんＰＲが進んでおります。数年前の格段のＰＲができていると思っております。でも、そのＰＲをさらに使っていただいて、市長、市長頼りじゃなくて、市もいろんなＰＲをやっていかなきゃいけない。そういうものができないものかと。これはいろんな面に関してかかわってきますので、まずはこのＰＲという部分を取り上げさせていただいて質問にいきます。

そして２点目、２点目は市民の健康と安全についてであります。

もちろん、先月の30日に議決した市民病院移譲問題、移譲が決定しましたので、その件、そして人災、そして災害対応についての質問。

３つ目は、周辺部の交通施策。

これはですね、皆さん本当にガソリン代の値上げというのはもう懐直撃していると思います。今現在170円ちょっといっていますけれども、昨日報道されました石油元卸の大手の発表によりますと、来月からは180円を軽く超えるだろうということであります。先月も月末は車がガソリンスタンドに列をなしていたと。180円というぎ、もうおっとろしゅう高かごと感じるですもんね。我々が知っているときで一番安いのではリットル80円台というときがありました。それに比べるともう倍以上、そういうことも含めて周辺部の交通施策問題について質問させていただきます。

以上３点が今回の質問項目であります。

では、最初の質問であります。武雄市のＰＲ。

先ほどちょっとつらつら述べましたけれども、市長が先頭に立って頑張って武雄市のＰＲ

をしていただいております。市長のネームバリュー、そういうのを使って、市はほかにどういうＰＲ方法をやっているか。もちろん観光協会も頑張っていらっしゃることでしょう。何で今ＰＲというのを持ってくるかと、質問にですね。これはこれまでも質問してきました。そのＰＲというのを何で持ってくるか。これを話せば長くなるので、長く話しますけれども、先日、麻生太郎元総務相の講演を聞きに行ってきました。大変すばらしい講演で大変勉強になったんですけれども、最後、麻生元総務相の講演の後、質疑の時間があったんですね。質疑の時間があって、やっぱり佐賀県でありましたので、こういう質問がありました。少子化ですと、田舎は少子化ですと、なかなか子どもたちは生まれてこない。そういう中で、どうすればいいのかという質問が飛んでおりました。その中のですね、麻生代議士も的確な答弁ではないだろうというふうな前置きを置かれまして、こういう答えをされました。今、日本で一番出生率が高いのは何県かと。どちらかわかりますか、福岡県だそうです。福岡県が今、出生率が一番高いらしいです。じゃ、福岡県の中でどこが一番出生率が高いのか。筑豊地方だそうです。一昔前は、これは麻生先生の言葉で言われたんですけれども、大変なところだったと。それこそ先ほど言われた炭鉱が閉山して失業率も高い、いろんな事件も起きる、本当に大変なところだったと。ところが、今や出生率が全国でナンバーワンだと。それは何でかと、やっぱり物すごく興味がありました。麻生先生がおっしゃるには、それは雇用の確保だというふうに言われました。今、筑豊のほうは企業進出が相次いでいるらしいです。今まで職についていなかった人、非正規の人が正規になって出生率がどんどん上がっていると、周辺部もどんどん出生率が上がっている。では、その企業誘致を成功させるためにはどうすればいいのかというのは、それはＰＲだと。ＰＲであります。大変勉強になった講演でありました。

本当に私は、すみません、話せば長くなるということで前置きしていますので、ちょっと長くなるんですけれども、本当に周辺部の出生率は減って高齢化率が高まる中、何かやらなきゃいけないと、何とかしなきゃいけないという中で、やっぱり一つの大きな筋道を見たような感じですね。

これは市長が具約でも書かれている企業誘致、雇用の創造というところにも適合しますので、ぜひ成功していただきたいので、その市長のＰＲ、そして役所の、市長だけじゃなく役所がもうそれに合わせて一挙に前進してやっていただきたいという気持ちで、このＰＲという言葉を選んで質問させていただいておりました。単なるＰＲではありません。出生率、そして地域経済のほうもプラスになるような形でやっていただきたいという意味を込めてやっております。

現在、今議会に工業団地の予算も出てきております。これから本当に工業団地が造成されてどういう企業が来るんだろう。今、工業団地と、説明があったと思うんですけれども、今、例えば３ヘクタールとか５ヘクタールとか１ヘクタールぐらいの工場団地じゃないんですね。

やっぱりもう１区画何十ヘクタールとか、そういう工業団地が多いです、大きいのはですね。だから、今度工業団地をつくられると、そういう中ですぐ満杯になっていただき、そして、また次の工業団地とかどんどんそうやってすれば地方の人口減対策も何とかなるのではないかと思っております。

では、１つ目の質問ですけれども、今、武雄市としてのＰＲ、もちろん企業立地課というのもできましたけれども、ＰＲとしてはどのようなことを考えていらっしゃるのか、これをまず第１点目の質問に上げさせていただきます。

ちょっと、先ほど言いました出番が早かったので山あり谷ありですけれども、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

どのようなＰＲの方法を考えているのかという御質問でございますが、若干それるかと思いますが、平成19年度のＰＲの状況について御説明いたしたいと思います。

新市長になりまして行政視察等がかなりふえております。行政視察が平成19年度23件、それから、がばいばあちゃん関係のＰＲは年間53件でございました。それに絡みまして、テレビ、あるいはラジオ等で取り上げられた件数が30回、新聞等で取り上げられたケースが56回、雑誌が13回ということになっております。現状でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ＰＲというのは、英語ではＰＲと言って、それは何の略かなと思ったら、パブリックリレーションズ、要するに公とそうでない人、あるいは公と公のリレーション、関係ですので、それが、だから、いたずらに武雄はこんなことをやっています、あんなことやっていますと、こういうところですと言っても関係がないとやっぱりだめなんですね。だから、それを意識して私が着任して杉原議長とよく相談をして、本当にいいアドバイスをいただいておりますけれども、どういうふうにして市民、県民、国民のハートに入っていくかと。要するに単にやっているというと、これどこも1,800の自治体やっているわけですよね。だから、どういうふうにして心に入っていくかということを念頭にこの２年間やってまいりました。

今思うのは、確かに佐賀のがばいばあちゃんであったりとか、あるいはレモングラスであったりとか、今度市民病院の関係だけでも物すごく私のブログもアクセス数が今ふえております。そういう意味で、いろいろ結果的であったり、原因であったりいろいろありますけれども、今武雄に注目が集まっていることは、これはもう紛れもない事実でありますので、さらにこれを確かにする方法として１つ考えられるのは、これは私、あるいは市役所、あるい

は議会だけじゃもうだめなんですね。議員の中にもブログをされております、私もブログをしています。それで、市民にも今武雄は人口当たりどうもブログの数が多いんじゃないかということも言われています。したがって、例えば、ふるさと納税をやりますといったときに、単に市の告知だけじゃなくて、そういうブログを持っている人たちが一斉にこれを書くということで出していくと。だから、なぜそんなことを言うかというと、今情報のとり方が、少なくとも東京の人であるとか大阪の人がどうやって情報をとっているかというと、グーグルだったり、あるいはヤフーの検索で入ってくるわけですね、検索で。だから、それを考えてみると、１人が、例えばふるさと納税やりますというよりは、市民全体、ふるさと納税やりますと、武雄ふるさと納税やりますというと、その検索のヒットが上に上がってくるわけですね。だから、そういったことをまずやりたいというふうに思っております。

それともう１つが、うちは副市長が両方ともしっかりしていますので、私自身がもう内政と外政の区分けはありますけれども、もう一たんやっぱり外にきちんと出ていこうと思っています。やはりこれはトップの役割だと思うんですね。そういう意味で、議長が今トップとしていろんなところに出ていただいているということは非常にありがたく思っておりますし、私自身もこれからの米農業も言いました、レモングラスも申し上げております。私自身の言葉でいろんな市場を開拓し、そして、国にも強く働きかけていこうと思っています。

そういう意味で、情報というとすぐデジタルというふうに思いますけど、基本的にはアナログである人間が見る、そして、アナログである人間が発する情報というのはやっぱり大きいと思います。そういう意味では、市役所も、これ言い方はちょっと悪くなるかもしれませんけど、ぜひ私を活用してほしいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほどＰＲというのをパブリックリレーションズということで言われたんですけど、こういうのを思い出しました。昔、一般質問で、ここでＩＴ、ＩＴという言葉を知っている方いらっしゃいますかと、手を挙げたら１人だけだったんですね、執行部の方の中で。パブリックリレーションズ、確かにそのとおりだと思います。市長にどんどんＰＲしていただいて、武雄を売っていただいて企業誘致、その他観光にも有利になるように働いていただきたいと思っております。

これはふるさと納税がもうすぐ、今議会でもかけられますけれども、始まります。ふるさと納税の中で、これはわからないんですよね。わからないというのは、ふるさと、もう佐賀、武雄はふるさとのほうだからお金が入ってくるとばっかりつい先入観があると、もらえるほうだとの先入観があります。ところが、まだわからないんですね。武雄自身にもいろんな公官庁ありますので、地方から来ていらっしゃる方が、その他の方がいらっしゃるんで、反対

に出されるかもしれない、そっちの故郷のほうにですね。ですから、そういう意味でも市長を先頭にしてＰＲして、ぜひ武雄にしてくださいというのをやらないと、ややもすれば出るほうが多くて入ってくるほうが少なくなるかも、これはわからないです。多分、意識としてふるさと納税をすれば武雄にお金が入ってくるほうと考えがちですけれども、アクションを起こさなければなかなか入ってはこないと思います。

そして、市長がこうやってブログで発信する、私自身もブログをやっていますし、今回の市民病院のときはアクセスなんていうのは本当にびっくりするぐらいのアクセスが来ていたんですけれども、やっぱりそうやってアナログ、デジタルありますけれども、デジタルのほうは今市長のブログ、市のホームページ、そして、各種ブログで発信されていると思います。

ここで、デジタルのほうなんですけれども、商売、商売でデジタルを使ってしている人、私自身もそうです。例えば、楽天、ヤフーショッピング、いろんな架空ストアが、ＩＴストアがあります。その中で何が一番重要視されているかと、メールの数ですね。例えば、うちも出しております。うちも楽天出しておりますけれども、うちみたいなところでも3,000から4,000はメールアドレスが集まります。例えば、市とかなんとかでやったらかなり集まると思うんですよ、メールアドレス。例えば、月300万円から500万円売り上げられているところは１万、２万のメールアドレスは持っていらっしゃるんですね、顧客の。今まで、昔はダイレクトメールというのがありました。ダイレクトメールを出すのは80円かかりますよね。例えば、普通の宅急便メールだともっと安いでしょうけれども、でも、メールアドレスさえいっぱい使っておけばボタン一個でただでできるんですね。今、武雄はこういう状況ですとか。ですから、そういうメールアドレスを集める。例えば、今教育委員会さんでやられていた安心のやつとか、いろんなやり方があります。さっきも言いましたうちみたいなところでも二、三千は集められる。そういうのを市でやればすぐ市外、県外からいっぱい集めることができると思います。それはやり方次第です。そのやり方までここで云々じゃないですけれども、そういう県外の人たちのメールアドレスを、ふるさと大使の方もいらっしゃいますので、集めて、それで、例えば、メールマガジンみたいな形で武雄市の情報とか、今こうやってふるさと納税が始まりますよとか、いろんな人、そういうことをやれば、発信はただですから、例えば、１万人メールアドレスがあったら、そこにぽんとすれば１万人ぽんと行くと。例えば、市長が今武雄市はこういう状況、こういう感じですよというのを書いてぽっと出せば、そこにぽんと出ると、そういうふうなやり方もあると思うんですけれども、１つは、これはアクセスされるほうじゃなくて、今度は出すほうという意味で、そういう方法も考えられると思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も牟田議員と同じことを考えていたんですね、実は。私、前任地が大阪府の高槻市で広報担当部長だった、そのときにメールマガジンをしたんです。あそこは、高槻市の場合は34万人都市で、もう６万人ぐらい登録してくれるかなと思ったら、これはまぐまぐで出していますけれども、たかだか1,500人なんですね。34万人で1,500人の登録しかない。しかも、だんだんそれがふえるかなと思ったら、もう横ばいか、ちょっと減少ぎみで、今、恐らく多分1,200人ぐらいだと思うんです。これは出ていますので、すぐ調べられますけれども、だから、なかなか行政のメルマガといったときに、あるいはメールといったときに、それはなかなかちょっと効果がどうだろうかというのは思うんですね。やっぱり期待が大きいと裏切られると、余り期待されていなかったらそれはそれでいいのかもしれませんけれども、私自身、個人でもメール、これは公、プライベート含めて800人のメールアドレスは持っています。だから、そういうふうにできれば市が広報という形で送るよりは個人個人で、先ほどのブログとも同じなんですけれども、やっぱり人間アナログで、役所というと垣根がどうしても高いと思うんですよね。だから、例えば牟田さんであるとか、私であるとか、議員もいろいろブログされている方も、メールをされている方もいらっしゃいますので、そういうふうにぬくもりのあるような形で送ると、それの連合体をつくるというふうにしたほうが、むしろ気持ちに入っていくのかと。

私自身もいろんなところに登録して、メールが１日200通から300通来るんですね。そのときに、これあんまり言うとあれですけど、今、高槻市のはもう見ていません。やっぱりそれは、でも、高槻市のだれそれという人のメールだとやっぱり見るんですよね。だから、そういうふうに個人が送っていますという形、そして、個人が集合として送りますという形のほうがより実効性が上がるんではないかと思って、先ほどブログで一緒に展開していきましょうということを申し上げましたので、メールを送るということの送り元をどうするかというのはちょっと考えさせていただければありがたいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

市長がおっしゃるように、メールアドレスを集めるのは大変ですよね。継続するのも大変だと思います。

先ほど言いましたように、商売の面から言えば、いかに集めて、こういう新商品出ましたよ、こういう特売セールがありますよというのをメールアドレスで送るというのはコストがかからない、いい方法ということでやっております。いろんな方法があると思います。出先機関で集めるとか、いろんな方法もあると思いますけど、ぜひ検討の中に入れていただきたいと思っております。

そして、ＰＲの仕方というのもいろいろあると思います。ある市、これはもう遠いところ

ですけれども、ある市では、そこの高速道路のインターの両サイドのサービスエリアでチラシを配布すると。どういうチラシかと、ここで何々市ではこのチケットを使うと何％で買えますよとか、こういうふうなのがありますというようなことで、そのインターを素通りさせないで、そこでおりてもらうとか、そういうふうなＰＲ方法もありますし、もう１つは、地元の運送会社さんに頼んで県外、市外に出るときにこれを張って出てくれと、そこの運送屋さんとかは快く全部張って出ていただく、これもあんまりコストがかからない方法でＰＲができると思います。やっぱりチラシというのは物すごく効果があって、パーキングエリアとかで配って次のインターでおりてこういうのがあっていますよといった場合、結構おりるらしいんですね。

これは、こういうところであれなんですけれども、武雄の物産館さんというのは今盛況ですね。ところが、私ずっと前から知っていますので、物産館さんというのは昔は本当にそれはもうお客さん１日１人あるかないかぐらいのときもありました。よく覚えております。そういう中で、そこの経営者の方とか、雨の日も風の日も雪の日も高速道路の入り口でこういうのがあっていますと配られていたんですね。大変もう感動を覚えるぐらい頑張っていらっしゃいましたです。だから、今があると思います。

だから、そういうふうに高速道路とかなんとかというところでこうやって頑張れば、ある程度効果はあると思います。ぜひ素通りさせないということで一考していただきたいと思いますし、これは例えば、私が住んでいる若木町も一緒です。国道498号線が新バイパス等通ると、やっぱりどうにかしておりていただかなきゃいけない、寄ってもらわなきゃいけないということで、同じように考えていかなきゃいけないんで、ぜひ協働してそういうことを考えていっていただきたいと思っております。

続きまして、市民の健康と安全についてであります。

先ほど触れました市民病院の件、そして総合健診の件であります。

まず、総合健診のほうから先にやりたいと思いますけれども、総合健診が合併後どのように変わったのかと。市民の方からよく聞くのが、今まで例えば武内町だったら武内町の公民館とか、その類似する施設だったと、若木町だったら若木のその公民館であったと。ところが、今度は大分変わったみたいで、よく不便になったという言葉を聞きます。そこら辺の状況を最初にお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

これまで山内、北方におきましては保健センターで実施しておったところですけれども、旧武雄町、特に６町につきましては健診する場所がないということで、公民館、あるいは学校の体育館等で実施してきたところでございます。

この場所を変えた原因の一つにつきましては、１つは場所が狭いと、駐車するスペースがない、待ち合わせ場所が少ない、それからプライバシーを守る場所を確保できないということで、住民の方から苦情があるということで去年から山内、北方の保健センターに変えたところでございます。

ただ、現状を見ますと、18年度、19年度比較しますと、全体的には158名ほど健診の方ふえていらっしゃいます。ただ、武雄の６町を見ますと、ふえたところが２カ所、そして減ったところが４カ所でございます、受診人員の。ただ、ふえたところは、武雄のほうに寄せておりますので、やっぱり武雄に来れば買い物できるとか、そういう形でふえたんではないかと思っております。

一応プライバシーを守るとか、そういう駐車場の場所がないというような形で変えたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、ここで１時20分まで休憩をいたします。

休　　憩　　11時58分

再　　開　　13時19分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほど住民健診、総合健診ですね。上がったところ、下がったところというふうな説明がありました。その中で、やっぱり場所が確保できない。なかなかプライバシーが保護できないというのが理由でした。これは１年前も同じことを言っていらっしゃるんですよね。でも、その後、私は各公民館を回りました。例えば西川登、あがん広か駐車場のあって、部屋もあがん区切ってあって、何でできんとかて。若木も一緒です。何でできないのか。やっぱり健診を多くの人に受けてもらって、早期発見、早期治療、今、自治体とか国でもそうですけれども、一番頭を悩ませているのが医療費、そして、福祉費の増加ですよね。そういうのの手前で防止する健診というのは、物すごく大きな役割をすると思うわけですよ。

やっぱり健診率を上げていかなきゃいけない。そして、重要なところは、今言われた健診率が下がったところというのは高齢化率が高いところばっかりですよね。やっぱりなかなか行けないと。去年も同じ話が出た。そして、ことしも同じ話が出る。去年１年間の間に私だけでなく、委員会、この議会においても何度もこういうお願いがあったと。やっぱり同じことを言われています。何でできないのか。

これは我々議員が何で言うかというと、住民の方々、その健診を受ける方々、私も受けたかとけ、町をまたがってまであがんとこまで行きえんと。やっぱりそういう声が多いから言

うわけですよ。この１年間あったんですけれども、その１年間、全く反映されていないと。もうことしはほとんど終わりましたよね。それで、来年になります。もういろいろ理由は言わんでよかですけれども、来年どういうふうに実行するつもりなのか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

今月いっぱいで健診が終わります。来年につきましては、これらの総合的な声、今議員がおっしゃったような地元の声を勘案しまして、健康づくりを総合的に審議する会、健康づくり推進協議会というのがありますので、その前に地元の意向を聞きながら、それに諮りながらなるべく健診率を上げるため、地元での開催を協議していきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

地元開催で今後検討していかれるということで、よろしくお願いします。

では、健診に続いて、市民病院の件であります。

先月30日に市民病院の民間移譲がこの議会で議決されました。市民の最も関心が高い内容の一つだと思っております。

きのうの質問で29番議員がおっしゃられたとおり、同調するところは多々あります。私自身もいろんな方々、多くの方々に聞いていて、とにかく救急医療を早くしてくれと、じゃ、それは公なのか、民なのか。官なのか、民なのか。それはほとんど問われていませんでした。官、民、とにかく早くしていただきたいというのが、私が知り得た範囲の中で一番言われた部分です。

きのうの答弁の中でも一番、官から民に移ったときの心配事の中で、採算部門とかいろんな話がありますけれども、民がしたら不採算部門のところは心配だというところもありますけれども、市長のきのうの答弁でセーフティーネットをきちんと張るということで、より一層安心できるとは思います。

そういう中で、まだ公営ということで、いろいろ運動が起きているみたいなんですけれども、その中で、例えば、市民の方から聞かれてよくわからんとのあっわけですね。私自身もなかなか答え切れないと。

武雄は、別に嬉野医療センターのあっけんが、ふとかと要らんろうもんって言わるっぱってんが、そがんねて言わるっとですよ。ばってん、私自身は、この武雄市民のために、武雄にふとかよか病院のあったほうがよかと思うですもんね。例えば、平時のときはいいです。この前の宮城の大震災とか、いつそがん災害が来るかわかりません。そういうときに、武雄は周りにあっけんよかろうもんと。武雄じゃなくても、周りにそういう救急の高度医療とか

あっけんよかろうもんというふうなお話ですけれども、災害のときはそいぎどがんなっとか。やっぱり災害のときは物すごく心配なんですね。やっぱり今、世界各地でいろんな災害がある。こっちでも何があるかわからない。地震なんて絶対なかて言われながらも数年前、福岡西方沖地震があって、このとき武雄も大分揺れましたよね。何があるかわからん。そして、もう１つは人災、あの秋葉原の悲惨な事件。多くの方が亡くなられ、負傷した方も多い。そういうときに一遍に来ると。そういう万一のときのためにも、きちんと武雄市内に、武雄市にそういうふうな医療を確保しとかんぎいかんと思うわけですね。嬉野のあっけんよかろうもんという人の意見になかなか答え切れん。

例えば、災害はいつやって来るかわからんばってん、この前、ちょっと東京に行っていました。東京へ行ったとき、ちょうど地震がありました。震度３くらいでした。これはやっぱり来たと思うですもんね。武雄でもし何かあったときに、やっぱりそういうふうに行ける。それと、例えば、私みたいな見るからにメタボなやつは、いつ倒るっかわからんわけですね。いつ頭のブチっていくか、最近心臓もちょっと痛かですし、どがんなっかわからんと。武雄の周辺部に大きい病院があるからいいんじゃないかという意見が私にはよくわからん。やっぱり武雄にそういう中核となる大きな病院があったほうが、武雄市民は安心・安全だと思うんですけれども、その点はどういうふうに考えていらっしゃるのか。

やっぱり地震の話ば何で言うたかというたら、平時のときはよかわけですね。やっぱり経営者が一番考えんぎいかんとは有事の際。有事の際というときは、変な意味の有事じゃないですよ。例えば、民間の経営しよって、普通のときは淡々と仕事ばしよっばってん、例えば、得意先の民事再生法ば出して何百万円もひっかかったときに、どがん対応ばしきっかとか、そういうときに、そういういろんなことがあったときに、対応できるような方策をきちんと先取りしてやっていっとかなきゃいけないと思うんですよ。ですから、武雄に中核の病院があるのと、その周辺部にあるからいいという話があるけど、私は武雄にあったほうがいいと、その辺のところを市長はどのようにお考えなのか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も内陸地震のときに同じことをやっぱり感じましたね。本当にこれが武雄で起きたときに、四川のときもそうだったんですけれども、一番テレビに映っていたのは病院だったんですよね。その病院できちんと治療をして、きちんと医療を提供すると。これは牟田議員、私のみならず、多くの市民の皆さんたちも、全部の市民の皆さんたちがそのようにお感じになったというふうに思っています。その上で、私は基本的に牟田議員とは同感です。

しかし、私が考えると、じゃ、それは直営でやるべきではないかという御批判もあろうかと思います。しかし、それはできない。やはりこれだけ私はお金、財政より命が大事だとい

う立場に立ってみても、それを支えるためには、それはどうしても公立病院が置かれている立場、位置、そして、今後の新医療制度が始まって、ますます医師の招聘が難しくなっていく、このことを考えたときに、やはり手段として民営化しか私はないと。ですので、２つの法人に応募いただきましたけれども、より救急医療の再開であるとか、あるいは今後持続的な医療を提供するところを選考委員会に選んでいただくということで、私は民間の方にきちんと任せると。任せた上で、三者協議会の上できちんとチェックをすると。だから、持続のために手段を選んでいることがあります。

その上で、さまざまな議論があると思いますけれども、やはり私は、繰り返しになりますけれども、そういう救急救命の機能を持つ病院、武雄市民病院も救急告示病院でありますので、だから、あの機能を、本来の救急告示の持つ意味、果たさなければいけない意味というのをきちんともう一回この三者の協議会の中で定義をした上で、それで、私はそういう救急救命機能を持つ病院が武雄の、これは交通の要路でもあります武雄のみならず、私はこの病院というのが、ひょっとすっぎ、今インターネットでいろんなところに出ています、私は全国からお越しいただくような、本当にすばらしい病院になっていただくということで、私は救急医療、そして、それを含む医療の中核の都市にぜひしていきたいと。これが私は安全・安心を武雄が提供するということで、私は期待に沿うものになるような病院を選んでほしいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長が言われたごとなると、本当にすばらしいことだと思います。今、話を聞いていて、一つ頭の中に浮かんだのが、大分前なんですけれども、名古屋空港で飛行機が墜落したんですね。何年前だったですか、七、八年ぐらい前だったか。そのときにやっぱり何百人というのが名古屋近郊の病院に運ばれると。その中で、一番患者を受けた、一番テレビにも出ていたというのは、民間の徳洲会病院さんだったんですね。あったときに物すごく頑張られると。そういうふうに、何かあったときに武雄に中核的な、民間が頑張ってくれるようなところが来たら、市民は本当に安心して安全で暮らせると思っております。

そこで、２つ目の質問なんですけれども、今、こうやって選考段階にいます。選考して決まりました。その後、議会にかけられます。議会にかかった後、先ほど１番目の質問のＰＲというところがありましたよね。変なＰＲじゃないです。ＰＲというより広報ですね。こうやって決まりました。例えば、話がひとり歩きするとか、質問のときにもいろんな言った話、言わない話というのがひとり歩きすると。そういうのがないように、市民に向けて、こういうふうな、ＰＲという言葉はちょっとどけますけれども、広報をきちんとやっていただく。例えば、私は若木町ですから、若木でやるとかなんとかという、そういうきちんとした広報

をやっていただけるもんか。これをやらないと変な話ばかりひとり歩きしたら困るわけですね。ぜひそういうふうなことをやっていただきたいんですけれども、その点に関してはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

終わった後も大事ですけれども、終わる前も大事だというふうに思っていて、これは基本的に選考委員会の権能に属する話かもしれませんが、私の思いをお伝えしたいと思うんです。

それは、今２法人が出てまいりました。これを私は市民の公開の説明会をぜひ開いていただきたいというふうに思っているんですね。これは選考委員会が主催になるか、市が主催になるかはちょっと別にして、ぜひ同じ時間で公平に、中立に、オープンにしていただく機会をぜひ私は設けたい、設けてほしいと思っています。これをすることによって、今いろんなうわさがあります。出来レースだとか、もうどうせ決まっとろうもんとか、それはやはりきちんと公正かつ中立に、オープンにする機会を設けることによって、市民がそれをわかるわけですね、自分たちはどっちに託せばいいんだろうかと。ひょっとすると、これよりも直営がいいとおっしゃる人たちもいるかもしれない。しかし、どこに選択肢をきちんと出すということが、私は今の武雄市政に求められていることだと思うんです。

その上で、私は決まった後のことを言うと、これは医師会の一部のメンバーとは調整を始めておりますけれども、ぜひ公開のシンポジウムをやりたいと。それは医師会、私、そして今回の民営化に賛成、反対の方々、さまざまな意見の方がいらっしゃいます。そこに今度決まった病院も入って、具体的な医療内容についての公開シンポジウムに私はなってほしい、なりたいというふうに思っておりますので、これはぜひ夏にやりたいというふうに思っております。

その上でもう１つ大事なのは、私も病院に通ったことがあります。これは単に聞くだけやっぎ、なかなかわからんですもんね。ですので、これは私の今の希望ですけれども、ぜひバスツアーを組みたい。だから、どっちに決まるにしても、決まることを前提にして、どっちが決まるにしても、そういうふうに実際老人会の方であるとか、婦人会の方であるとか、市民の皆さんであるとか、希望がある方々にバスに乗ってもらって、佐賀か福岡かわかりませんけれども、そういうふうに見ていただくことによって、こういう医療があるんだと、こういう人たちが今度医療を支えていただくんだと、そういう機会をぜひ私はつくりたいというふうに思っています。

要するに、先ほどあったように、本当に理念と観念だけで、いろんなうわさ話が出るということで、一番損するのは私たち市民だと思っていますので、私は市民、あるいは患者の皆さんたちにそういったことをぜひ見てほしいということを決まる前、決まる後に、ぜひそれ

は私自身は提供してまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ実行していただきたいと思います。市民に一番知っていただくというのが、何ていうんですか、それが市民のためにはね返りますから、ぜひそういう広報をきちんとやっていただきたいと思っております。

市民病院のほうは以上で終わります。

続きまして、災害のほうなんですけれども、災害の中で今度の岩手・宮城内陸地震のときもそうだったんですけれども、やっぱり停電、携帯電話が通じない、通信ができないというのも多々聞こえてきます。

そういう中で、武雄市は防災計画を出されていますね。防災計画を出されている中で、例えばいろんな、何ていうんですか、鉄柱にスピーカーを立ててやるとか、あと防災無線というか、ＣＭＣ無線でやるとかあるんですけれども、ぜひそういうふうな、災害のときのことを考慮して、無線のほうとか、どういう災害のときでも使えるらしいです。携帯のようにパンクしたりせず、１ワット以下の電源さえ確保できれば使えるらしいです。その辺が夏過ぎぐらいにどういうふうになるかという結論が出るという話だったんですけれども、途中経過はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

災害関係に関しての情報の発信というようなことで、これにつきましては、今、議員おっしゃいましたように何種類かの方法が武雄市にも提案をされております。

現在、防災行政無線、通常国が言われています防災行政無線、それからＭＣＡ無線が、これはＪアラートにも接続が可能だというようなことで、これは今基山町がスタートされましたけれども、それとコミュニティーＦＭ放送を使った方法、この３つについて、現在そのメリット、デメリット、これは経費等も含めてでございますけれども、今それぞれの方からのヒアリングを受けて現在検討をしています。できましたら、今年度中に少しでも着手できるようなことで進められたらなというようなことを考えながら進めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この問題は、再三にわたり議会でも御指摘を賜っておりますので、事務方からいろいろ途

中経過も含めて聞いておりますけれども、なかなかやっぱり決め手がなかわけですね。一長一短やっぱりあって、今３つぐらい大きく選択肢がありますけれども、でも、いずれにしても、小田原評定になっては元も子もありませんので、先ほど総務部長からありましたように年度内にはきちんと方針を立てて、議会でお認めいただければ、お認めいただくということが前提ですけれども、そういった無線機能を導入したいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

繰り返しになりますけど、災害というのはどういう形でどういうふうに来るかわからない。ぜひそれに対応する形で早急に決めていただき、市民にとって一番安心・安全な方法でやっていただきたいと思っております。

続きまして、最後の質問です。

周辺部の交通問題、これは前からあっています。そして、今、地域交通の委員会もできて、その中で話されています。周辺部にとって足の確保、ちょっと言い方がおかしいかもしれませんけど、本当に大変なんですね。

さっき言いましたガソリン代がリッター180円になっている。例えば、うちから市役所まで20キロ、往復するだけで大分ガソリン代も違ってきます。今、私の町で言えば、例えば、武雄行きのバスが１日３本ですね。そういうふうに、なかなか公共の足というのが、公共の移動手段と言ったほうがいいですかね、交通手段が本当に手薄になってきております。元気なうちはいいです、車で行けますから。その車自体もなかなかガソリン代の高騰で移動が厳しくなって、先日もテレビであっていたのは、もう自動車をやめて原付バイクに変えたとか、いろいろそういう話も聞こえてきます。これ、ガソリン代が180円でとまればいいですよね。年末には200円ぐらいいくんじゃないかと。そして、下がる要素はなかなか見つからないんじゃないかというふうに言われています。

そういう中で、公共の移動手段がなかなかない周辺部というのは、物すごいハンディということになってしまいます。そういう中で、よく最近行政のほうで言われるのは、産官学というようなことで言われています。

同じように、行政、住民、そういうので協力して、そういうふうな公共の足、公共の交通手段が確保できないものか。今度、地域協働の交付金で各町交付金がいただけます。そういうのを利用するとか、いろんな方策があると思います。

例えば、武雄にもタクシー会社があるので、そういうので使っていただくとか、例えば、こちらも自動車学校の社長さんがいらっしゃるので、その自動車学校の協力を仰ぐとか、いろんな方法があると思います、ずっと回っているんでですね。だから、そういうふうな、いろんなお互い、民と官と、そして地元が協働して、協働というのは、もちろんお金も出し合

うのかもしれない。そういうふうな方法がとれないものか。これは本当に周辺部にとっては切実な問題なんですね。小学生、中学生というのは歩いて、もしくは自転車で自分で行きます。高校生になったらどうなっているのか。高校生になったら、例えば、うちの町、多分武内町もそうかもしれませんけれども、その時間帯にバスがないから、ほとんど親が駅まで送っていっているんですね。ほとんど親が駅まで送っていっています。よく中高一貫高ができるときの議論で、もしそこに行けなかったら、遠くに行かなきゃいけないようになるという意見がありますけど、既にもう周辺部は遠くまで送っているんですね。だから、そういうふうになると保護者の負担が物すごく大きくなる。今、通っているバス会社さんに増設はなかなか難しい。そういう中で、官と住民と民間、産官学というんですかね。学がちょっと違いますね。違うけど、そういう三者でなかなかできないものか。

例えば、１日20キロ往復すると40キロ、リッター15キロの車で３リッター、３リッターを例えば20日間、60リッター、それでもう１万円飛んじゃうわけですね。リッター200円になったらもっと飛びます。年間に直すと十数万円の出費になります。そこから、例えば、また電車で通わなきゃいけないというのは、ほかの人と同じ条件になりますので。ですから、そういう周辺部に対して、官と住民と民間で協力し合えてできる方法はないものか。これは企画部長ですかね、だれですかね。答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

事業者が持っている車、自分の車を活用して、地域交通に貢献したいと、そういう気持ちを制度上、どのようなことで制度化されているかということでございますが、仮に、今自動車学校の話が出ましたけど、自動車学校さんが持っておられる送迎用の車を一般の乗客として、乗客を運送するバスとして利用する方法については、２通りがございます。

それにつきまして、１つは生徒さん、教習生の方と一般の乗客、ともに無償で運送する方法。これは自治体から補助金を受領することは不可ということで、いわゆるボランティアでございます。

もう１つが教習生、それから一般乗客ともに有償、ともに料金を取るということでございます。これは道路運送法第４条の有償旅客運送許可が必要となっております。この場合、自治体からの補助金を受領することは可ということになっております。ただ、教習生の方はただですよと、一般の方は料金を取りますよで、混乗はできないというふうになっております。

道路運送法第４条の許可の審査の基準でございますが、２種免許取得者の常時配備と11人乗り以上の事業用車両を６台以上保有しておるということが条件となっております。

無償の場合は、一般乗客を無償で運送するということですので、慈善事業なり、あるいは自分のところの会社のＰＲなり、それに資するというふうに思われます。

有償の場合は、許可を取る必要があるということですが、いずれにせよ、事業者がどのような選択をされるかということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

いろんな方法があると思うんですね。さっき言いました官、民、住民、例えば、その運転手さんに対して住民がやっぱり何でもただでお願いしますじゃないと。やっぱり地域住民も汗をかかなきゃいけないと。だから地域住民も、例えば運転手さん代のこのぐらいは負担しますよと、ガソリン代は仕方んなか、出してくださいと、こういうふうになるかもしれない。

そして、今、第４条の話をされていましたけれども、道路運送法第78条は調べられましたか。第78条のほうは、有償運送の制度が、もう法律が変わりましたよね。ですから、今言われた分で当てはまらないのもできるようになりましたよね。ですから、いろんな方法ができると思います。

今、１つの会社の例で出ましたけれども、これがひょっとして、旅館さんのバスというのもあるかもしれない。タクシーのほうもタクシー会社と切り離してＮＰＯをつくってやっても問題ないかもしれない。いろんな方法があります。

周辺部はさっき小学生、中学生は今歩いてとかなんとかというのを言いました。高校生は、ほとんど送り迎えです。やっぱり女の子とか、夜８時過ぎに駅まで戻ってくると、そこから交通手段がないと。自転車で帰ると、うちも娘ばってんが、やっぱりえすかですもんね。やっぱり迎えに行くわけですよ。男の子だってそうですよ。やっぱり途中、峠もいっぱいありますし、私は学生時代、武雄高校まで若木から自転車で通っていました。でも、その時代は交通量は今ほど多くなかったですし、そういう危険度というのも、私が襲われるわけないですから、危険度も余りなかったですね。（発言する者あり）

大変な世の中になってきているわけですよ。本当に十数年前と今じゃ時代が変わっていると思います。先ほどの秋葉原の事件とか、考えられんことの起きようわけですね。そういう中で、繰り返しになりますけれども、市役所が産官学連携と同じように、官と民と住民が協働して、お互い汗をかいて、できるだけ最小の負担でできるような形で考えていただきたいと。

今、第４条のことを言われましたけれども、第78条とか第78条の４とか、いろいろありますよね。そういうのを研究して、できるだけ早く、そういうふうな交通手段の確保をとることが、やっぱり周辺部にとって大きな、大きな人口減少の抑制の措置にもなりますし、高校に行くとなっても、親の負担がそんなになくてもいいなと。朝６時前に送って帰って、自分の仕事をして、また仕事に出かけるとか、そういう状態ですので、ぜひ考えていただきたいと思います。

最後は、こうやってお願いになりましたけれども、何か答弁はよかですね。

では、今の分をぜひこれから考慮していただいて、反映していただきたいと思います。企画課さん、よろしくお願いいたします。

では、以上をもちまして質問を終わります。ありがとうございました。